

巻頭言

お茶の水女子大学では、2009年よりグローバル教育センターが主催して、世界8か国8大学の学生が参加し、サイバー空間で意見を交換する「多言語・多文化サイバーコンソーシアム（Multilingual & Multicultural Cyber Consortium: MMCC）を行ってきました。その後、2011年に東北地方を見舞った「東日本大震災」をきっかけに、震災が引き起こしたさまざまな波及現象を問題意識として、2012年度以降は、このコンソーシアムを、震災のあった3.11の時期に被災国日本に各国の学生が集い、今や地球規模で頻発する自然災害や、それにとまなうさまざまな危機とその対応、さらには持続的可能な復興援助活動について、ローカル／グローバルに考える場として、各国の学生が積極的に意見を交換する「国際学生フォーラム」へと発展的に引き継ぐこととし、5年目となる今年は「地球環境へのグローバルな挑戦」をテーマに「第5回国際学生フォーラム」を開催しました。

今回は、世界5カ国（韓国・中国・タイ・アメリカ合衆国・チェコ）、5大学から参集した8名の学生と、本学学生参加者9名が、震災や原子力発電所についての知識を深めるスタディーツアーにいっしょに参加し、また、東日本大震災の被災地である陸前高田市を訪問した本学の学生による実習の報告や、被災者と復興活動に関わる人々の話を聞くという体験を共有し、さらに参加者全員が、本学においてプレゼンテーションおよび討論を行い、震災復興と国際連携についての理解を深め、同時に何ができるかといった提言を行いました。

参加した学生は、自国が見舞われた災害の状況や、災害救助・復興援助活動の実際を調査して報告し、また、他国の災害と危機管理の状況を知ることで、大学生として、災害地の復興にどのような活動が可能か、どのような貢献ができるかを真摯に討論し、さらに災害危機管理の知識と対応の実際について、各国が情報を共有することで大きく広がる国際連携の可能性についても検討し、その重要性を認識することができました。出自も母語も異なる参加学生が日本語および英語を共通言語として意見を交換し合うことで、さまざまな視点を提供・共有し、それまでには思いもつかなかったクリエイティブなアイデアが次々生まれるというエキサイティングな経験を通して、参加学生が、グローバルな意識とダイヴァーシティのもたらす創造性の広がりとその重要性を実感できたことがなによりの収穫であったと思います。

2012年度、本学は文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択され、以来、学生のグローバル力を強化するさまざまなプログラムを推進しています。本フォーラムもこの事業の一環として位置づけられ、震災という我が国の現在および未来を左右する重大な出来事を、グローバルとローカル、両方の視点から捉え、未来につなげることでできるグローバルな若手人材を育成するという、本事業の目的に資する成果を上げられたことをたいへん喜ばしく思います。

フォーラムの企画・推進にあたっては、サイバーコンソーシアム開設以来、本学のグローバル力強化に貢献してこられた、本学元グローバル教育センター長の森山新教授に今回も多くの助言をいただきました。また、細谷葵グローバル人材育成推進センター特任准教授の行き届いた運営・進行により、内容の充実したフォーラムとなりましたことに深く感謝しております。同じくグローバル人材育成推進センターの酒井彩アソシエイトフェロー、文教育学部グローバル文化学環の小林誠教授にもたいへんお世話になりました。さらに、いつも本学学生ボランティアスタッフと密に連絡をとり、来日する学生に不自由のないようにと、細やかな手配をしてくださったグローバル教育センターの長塚尚子 AA、同・有家佐和子 AA、グローバル人材育成推進センターの高柳磨美 AA、相羽美代子 AA にも記して御礼申し上げます。最後に、フォーラムに出席するために震災や危機管理について熱心に調査し、フォーラムに臨んだ各国からの学生のみなさん、そして彼／女らを迎えるために、猛勉強するだけでなく、空港への送り迎えや歓送迎会の準備、東京見学ツアーのロジ等、周辺企画も自ら進んで計画し、時間をかけて準備してくれた本学学生ボランティアスタッフのみなさん、ほんとうにお疲れさまでした。若いみなさんが、このフォーラムで得た貴重な経験と成果を、今後も継続的な活動へと展開し、グローバルな舞台でさらに活躍してゆかれることを期待しています。

お茶の水女子大学グローバル教育センター長

戸谷陽子